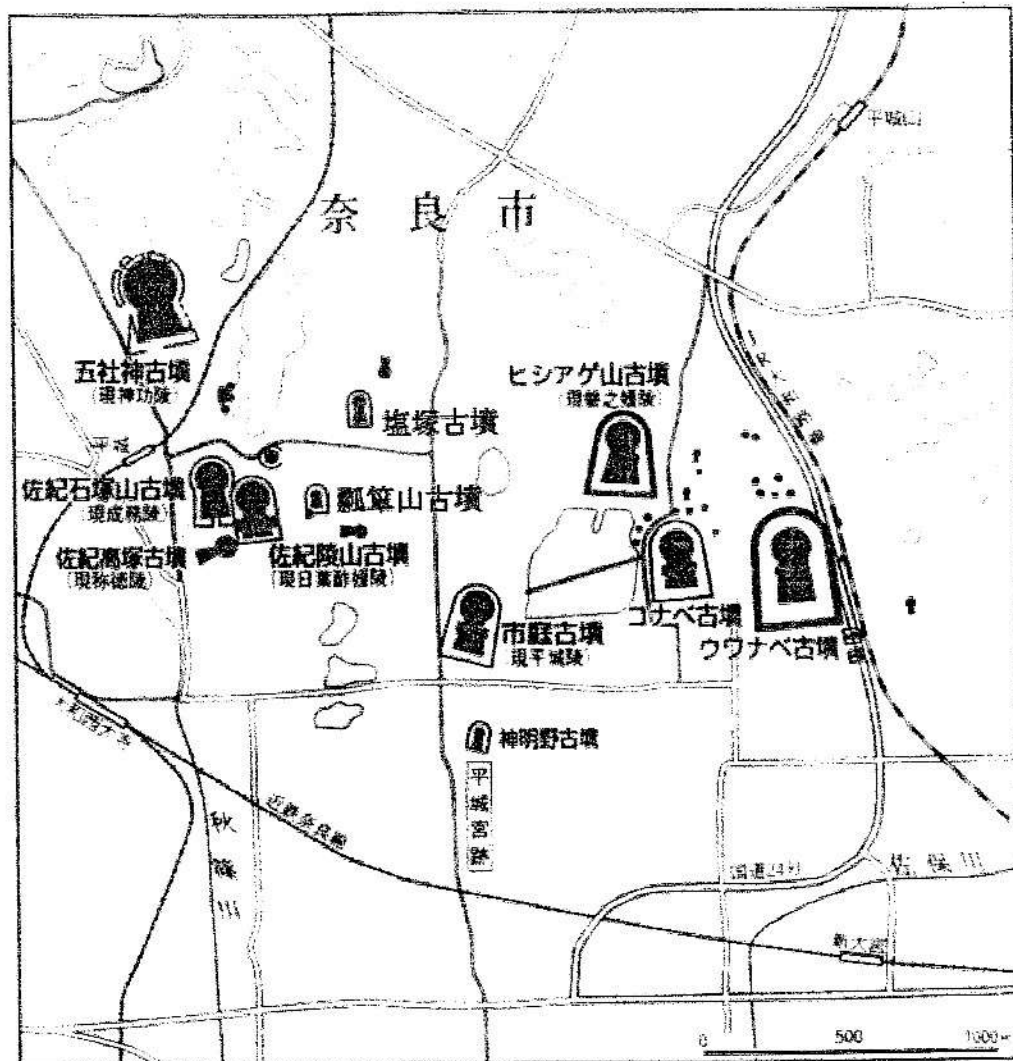


佐紀盾列古墳群



佐紀古墳群地図 <『天皇陵古墳』 森浩一 大巧社(1996)から引用>

奈良市内の大型古墳（全長200m以上）

古墳名	所在地	全長（m）	墳丘の形	時期
神功皇后陵（五社神古墳）	山陵町	275	前方後円墳	前期
ウワナベ古墳	法華寺町	255	前方後円墳	中期
平城天皇陵（市庭古墳）	佐紀町	250※	前方後円墳	中期
垂仁天皇陵（宝来山古墳）	尼ガ辻中町	227	前方後円墳	前期
磐之媛命陵（ヒシアゲ山古墳）	佐紀町	219	前方後円墳	中期
成務天皇陵（石塚山古墳）	山陵町	218	前方後円墳	前期
日葉酢媛命陵（陵山古墳）	山陵町	207	前方後円墳	前期
コナベ古墳	法華寺町	204	前方後円墳	中期

※平城天皇陵の全長は前方後円墳に復元した場合の推定値

三輪山麓の古墳群が造られた3～4世紀には三輪山地域を基盤とする豪族たちが大和国を造っていましたが、佐紀盾列古墳群はそれより新しい4～5世紀前半に造営されました、今の天皇につながる河内の豪族が大和の地に入ってきたのは5世紀中葉（457年雄略天皇）であり、河内の天皇族が造った古市・百舌鳥（仁徳・応神陵など）の古墳群より時代が古いのですから、神功皇后・日葉酢媛・成務天皇陵などが、その時代に造られたことにはなりません。では、誰が造ったかということは字の無い時代ですから歴史を語るものは残されておらず、語り継がれてきたことだけです、語り継ぐという事は自分に都合よく脚色されていってしまいます。ただ云えるのは、この地には春日・和珥（わに）・小野・栗田氏などの有力豪族が住んでおり、この一族から応神～敏達天皇までの7天皇に9人の后妃を入れていますから、彼らがこれらの古墳群の主であり、三輪山麓の大和王朝から春日・和珥を経て天皇族が大和王朝に移行したものだと思われます。（参考：直木孝次郎著「奈良」岩波文庫）